

宮本たかし 県政 NEWS

のしく しこく っかりと

宮本 たかしを育てる会

〒915-0876 越前市白崎町73-1-3 3F

電話 ファックス 0778-22-6633



Vol.08

2011新年号

宮本たかしから新年のご挨拶

新年 明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかにて新しい年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。昨年を表わす漢字は「暑」ということでした。確かに今年の夏は暑かった。しかし暑かったのは気温だけで政治、経済とも「寒」と表わしたほうがいい状況だったのかもしれない。県政にたずさわる人間としては力不足を痛感している昨今ですが、めげてばかりでは何も進展はしません。たのしく・かしこく・しっかりとした福井を目指し今年もしっかりと努力して参りたいと思っております。また、本年は私にとりましても勝負の年となります。できるだけたくさんの方とお会いして自分が県政に対して持っている熱い思いをお伝えすべく活動して参りたいと考えておりますので従来に増してのご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。



<県政メモ~その3-1 北陸新幹線について>

議員活動をしていますと「北陸新幹線なんて知らないんじゃない?」という話をよく聞きます。なぜ議会を含め福井県がここまで新幹線の延伸にこだわるか、その理由についてお話ししたいと思います。

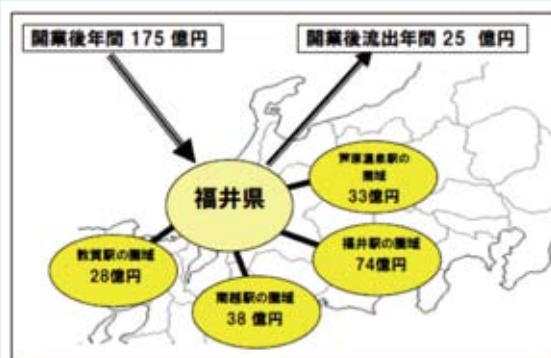


例えば東京へ行くときに乗り換えなしで所要時間も約50分短縮されるわけで、これもメリットなのですが、「私は年に1回しか新幹線で東京へ行かないのに新幹線は必要ない」という話もよく伺います。確かにそういう方にはメリットは少ないと私も考えます。しかし、ちょっと乱暴な言い方ですが、簡単に言うと「新幹線は福井から出る人のものというより、福井に来る人のために、そして福井へ来た人が福井でお金を使って頂くためにある」というのが本質的なところだと思います。

左の図は新幹線が敦賀まで延びた場合の福井県へ来る人がどう変わるかの予想ですが、現在400万人の来県者数は490万人へ

90万人増加すると目され南越前駅にも年間17万人の流入増加が見込まれています。もちろん、新幹線ができれば買い物等で他県へ行ってしまふ人もいらっしゃる。この予想流出数が70万人、差し引き20万人の流入増加となるわけです。

次に経済効果ですが、建設に関する公共工事の経済効果はここでは触れず(もちろん大きな効果はあります)、開業後のお土産や宿泊など経済波及効果について言いますと、左の図でも分かる通り、年間175億円の新たな経済効果が見込まれています。もちろんストロー効果はあるわけで流出分が25億円、差し引き150億円の新たな経済効果が生まれると予想されています。南越前駅周辺にも年間38億円が落とされる見込みとなっています。



さて、ここでの御批判は「建設には地元負担が大きいだろう?」また「並行在来線どうするの?」というお話だと思います。この点については次回このコーナーにてお話ししたいと思いますので楽しみに!



8月9日。東京、赤坂において「北陸新幹線建設促進大会」が開催され、沿線自治体の知事などたくさんの関係者が一堂に会し政府に対し北陸新幹線の早期整備が訴えられました。



8月15日。大虫地区鬼ヶ嶽火祭りの神事に参加しました。



8月25日。越前市長、および越前市議会議員、そして地元選出県会議員により23年度越前市重要要望事項に関する要望が行われ、要望書が知事に手渡されました。



8月28日。越前市スキー連盟会長である中島氏が福井県体育協会の体育功労者賞を受賞。その祝賀会にて。



9月18日。理事をさせて頂いている社会福祉法人陽光会のひまわり作業所にて文化祭が行われました。



9月28日。JA越前たけふの大虫低温倉庫にお邪魔して米の検査の概要と販売拡大に関する取り組みについてお話を伺ってきました。

トピックス



10月11日。会長をさせて頂いている越前市ソフトテニス連盟主催の親子大会が開催されました。私は娘に付き合ってもらえず単独にて参加。



10月17日。武生青年会議所の「心プロジェクト」完成祝賀会に参加。自分の手形を確認してきました。



10月23日。武生南小学校の学習発表会に来賓としてお邪魔し子どもたちのすばらしい歌や踊りに元気をもらいました。



11月3日。恒例の6大学交流フェスティバルの懇親会に参加しました。写真は幹事校、法政大学OBの皆さんによるハワイアンダンスの雄姿です。



12月12日。高木毅代議士のはからいで参議院議員でエコノミストの佐藤ゆかり氏の政経講演会に参加しました。



12月17日。所属会派である自民党県政会とJA福井県中央会との意見交換会に会派執行部の一員として参加しました。

このコーナーでは先の2回の議会における私の主な質問についてご報告いたします。

★9月議会

福井県民の将来ビジョン(仮称)について

将来ビジョン策定の前提となる「少子高齢化」など将来への見通しが産業政策に結び付いていないこと。また、新サービスの創出と物の売り方の支援の2点が重要であるとの旨で知事を質しました。これらについて知事からは地域に密着した給食、介護サービスなどのコミュニティビジネスも大きな可能性があり、このようなビジネスの拡大を支援していくつもりであること。また、新しいサービス業や新しい物の売り方という視点は、本県の成長にとって重要であるので策定中の経済新戦略の中で、これを具体化する必要があるとの前向きな答弁を頂きました。



県の資金管理について

歳計現金における一時借り入れにおいて、現行の調達金利が1.0%前後と同じ格付けを有する一般企業の調達金利(0.12~0.24%)に比べ高すぎるという問題意識はあるか、短期金融市場へのアクセスについて今から調査、準備するべきではないか。また、7月末で864億円ある各種基金において、現在90%余が1年以内の預金にて運用されているが、基金の性格上1年以上固定化できるものについてはより高い金利収入が見込める国債などで運用すべきでないかとの指摘と提言をしました。これらについて会計管理者からは調達コストが高いという認識は持っており、今後新たな手法についても研究していくこと。そして運用資金に中で今以上に債券で運用できるものがあると感じているので預金利率と見合いながら債券での運用も拡大したいとの答弁を受けました。

日野川地区水道用水供給事業について

一般ユーザーにとって、上水の単価は5年間で約56%の増加とここ数年で高騰している。今年改定年度となる単価についてなるべく安く引き下げられないかと知事の所見を伺いました。知事からは今回の給水施設の整備完了に伴う料金改定において、建設事業費を当初計画より抑制し471億円が456億円になっている。これによって減価償却、支払利息を減額できること。あるいは、維持管理費の一部の縮減などが考えられるので、こうしたことを背景にしながら関係市や町と協議し、適正な水道料金を設定したと考えている旨の引き下げを示唆した形で答弁を引き出しました。

★12月議会

産業・経済について

知事は教育・文化については十分な政策と予算措置も行っているようであるが、産業・経済政策を軽んじているという評価が県民にあると感じている。多種多様な県政における政策課題において経済または産業に関する項目をどのような優先順位で見ているのかという質問について、現在、経済・雇用の問題は県民生活の最重要課題であり、優先順位高くして具体的な政策を進めるべき時期であるとの認識を確認しました。

また、最近「ふるさと起業」という福井に帰住して、または移住して頂き会社を起こして頂くという政策が見られるが観光営業部の主管にて推進されているようである。ふるさと起業の候補者へのアプローチについては同部署にそのノウハウがあると感じているが、その候補者への具体的な支援内容の検討や施策としての支援ラインナップを考える分野については産業労働部に一日の長があると考えます。この二つの部局の連携において初めてこの事業は成功すると思われ、部局の壁をなくし連携して施策を実施することについてどうお考えか所見を質しました。観光営業部長からは産業労働部のみならず、農林や福祉などの担当部局とも連携し幅広い分野で「ふるさと起業」を推進していくと積極的な答弁を頂きました。



企業依頼型施策の一本化について

福祉や環境分野など企業に協力を要請するタイプの事業が増えてきているが、これらを「CSR認証制度」としてまとめ一元化し、それぞれの部門が行うのではなく資源を集約化して実施できないかの質問に対し、依頼自体は集約化した形で努力していくがこれらの評価については企業貢献のみを一元的に行うことは難しいと考えているとの答弁でした。一元化した評価は手法を工夫すればできると感じているのでこの点については引き続きフォローしていきたいと考えています。